アセンダント Yogyakarta-Japan 企画

2020年8月〜9月 ASP滞在企画　篠田ゆき

https://www.sinodayukiart.com

篠田ゆき Yuki　Shinoda　/　1988年大阪生まれ。

アーティスト。ドローイングをベースに作品を制作。様々な素材を用いた制作、詩作、野外インスタレーションなど。

ASP滞在期間に行う予定だったプロジェクトの紹介とコロナ禍に考えること

／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／

ASP滞在のために企画していたのは、アセンダントというタイトルの、まだ出会っていない人同士が、移動するひとりの人間を通して、モノとモノを交換し合うというプロジェクトだった。この企画では、物を介した交換による、つながりや機会や縁を可視化する試みとしてインドネシアの儀礼的な交換行為「クラ交易」に着想を得て内容を組み立てていた。残念ながらcovid19の影響により、これらは実現できなかった。

当時のコロナ禍自粛期間においては（2020年5月前後）移動を伴い、不特定多数の人間が集まり交流するということは、リスクであり忌避されるべきものであるという認識が強くあった。実際に渡航制限がかかり、自粛要請や緊急事態宣言が発令され、活動は大いに制限する方向で選択しなければならなかった。若い人はかかっても死なないから大丈夫という声もあったが、国によっては被害が甚大で、滞在先のインドネシアでは今でも地域によっては大規模社会制限が解除されずにいる。（2020年9月現在）

covid19の存在は、社会の姿を一変してしまった。

移動、交換、交流というものはコミュニケーションによって成り立つ私たちの社会に必要不可欠なものだ。それを無くしてこの人間社会というのは成り立たないだろうし、これらの交流要素はたぶん今後もなくならないだろうと思う。人と人が関係する時、見えるものも見えないものも伝播し、交わっていく。お互いを信頼し、関係を創造し、維持していく交流というものは、ずっとあたりまえにあり、これからもそうだと思う。コロナ禍という事態は、大変な出来事であるのは間違いない。それは、今までにはない新しい関係構築の手段を発明するにちがいない。私が重要だと思っているのは、この変化に際して、大切にしたい思いや感覚や心や想像力を携えていくことを忘れないということだ。

アーティストである自分は、作品制作やその活動を通して今後も自身のあり方を模索していくだろう、また社会との繋がり方も探っていくのだと思う。コロナ禍で外へ向いていた意識は内側に向くようになった。これも一つ興味深いことで、拡大しない、という選択が、いまあるもので充足するための、別の方法を見つめる機会をつくった。新しい選択が生まれている。

移動や交換に魅かれていた理由は、まだ出会っていない何かと出会い、未知のものを獲得する喜びを求めていたから。その舞台に想定されたのがインドネシアだったのは、自分の持つ「縁」が産んだ結果なのだと思う。何とつながり、どのように繋がるのかは、その人の持つ個人的な性質や機会に由来するかもしれない。今回は実現されなかったが、別のかたちでもこの企画は再検討していくと思う。

（2020年9月30日　篠田ゆき）

HP

https://sinodayukiart.com